

ゲーム感覚で、リアルタイムで環境情報を受発信

## risa lab. リサ研

### 今月の研究対象：「スマートフォンとエコ」

スマートフォン（スマホ）が大流行中です。携帯電話より大きな画面で「アプリ」と呼ばれるソフトウェアを入れて機能を拡張、通話はもちろんネットワークを駆使してさまざまな楽しみ方をする人が増えています。では環境活動に関する「エコなアプリ」はないか、探してみました。

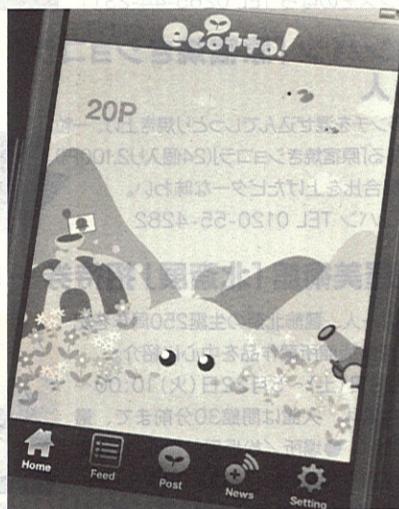
スマホの代名詞といえばiPhone。米アップル社がシンプルな端末と「iOS」と呼ばれる基本ソフトを開発し、日本ではソフトバンクとauから発売されています。アプリはアップル社がすべて審査し、「App Store」というサイトからダウンロードできます。

「エコ」をキーワードに検索すると、クルマの燃費を管理したり、CO<sub>2</sub>の排出量を計算したりするアプリが見つかります。中でもスマホらしさを感じさせるのが「ecotto（エコッ

ト）」という無料アプリ。ダウンロードして画面を開くと、ぶよぶよとした緑のキャラクターが登場。画面を切り替えると「ゴミを分別しました」「再生紙を使いました」などの行動がリストアップされ、どれかを選んで「自分はこんなエコ活動をしたよ」と投稿することができます。すると「ポイント」がついてキャラクターが成長していくのです。投稿はtwitterやfacebookを通じて公開され、友達や同じアプリを使う仲間から激励もされるという仕組み。ゲーム感覚でエコを楽しむことができます。

iPhoneに対抗するのは米グーグル社が開発した基本ソフト「Android」を搭載したスマホ。こちらはiOSより開発の自由度が高く、より幅広いアプリが公開されています。その増加数は月2、3万本という勢い。それだけに安定性や信頼性を見極めるのが難しいとも言われています。

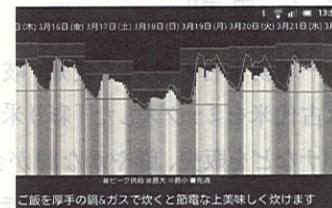
「電力の使用状況ウィジェット」は電力会社が公開する電力使用状況を画面上に刻々と表示するアプリ。昨年、経済産業省・資源



エコ活動を投稿するとキャラクターが成長するアプリ「ecotto」

エネルギー庁が主催した「節電スマートフォンアプリ大賞」を受賞しました。「中部版」も開発されており、中部電力管内の情報（でんき予報）を得て節電に役立てられます。中電の冬場のでんき予報は3月末で終了していますが、過去の履歴は参照でき、予報再開とともにリアルタイムの表示も復活するそうです。

NTTドコモは独自に選んだ数百のアプリを「Dマーケット」という自社サイトを通じて紹介しています。「ecoモード」は画面の明るさなどを設定して電池の消費を抑えるアプリ。スマホは携帯電話に比べて電池の消耗が早いので、重宝することでしょう。ドコモ東海支社広報室の佐久間豊さんは「生活に役立つ機能はますます増えています。ただ、便利なだけにリスクがともなうことを承知して、最低限ウイルスをスキャンするアプリなどを入れて活用してください」と話しています。



節電を意識させる  
「電力の使用状況  
ウィジェット」